

檜枝岐小中学校 国語科教育全体計画

めざす児童生徒の姿

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ◇内容や要旨を捉えながら読むことができる児童。 ◇読み取ったことや考えたことを発表し、伝え合うための基礎を身につけることができる児童。 ◇話の中心を捉えながら聞くことができる児童。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇主題や要旨を的確に捉え、それに対する意見や考えを集団の中でしっかりと伝え合うことができる生徒。 ◇読解力を高めるために、辞書を積極的に活用し、自らの語彙力を高めることができる生徒。



めざす児童生徒を育てる、9年間連続して取り組む学習スタイル

読む能力を 育成するための 指導の工夫	三領域を 支えるための 言語活動の習得	よりよい 音声言語環境の醸成
<ul style="list-style-type: none"> ○個々の児童生徒の判断や考えの根拠を明らかにし、全体で練り上げることにより理解力の伸長を図る。 ○文章を読んで、どう感じたか感想を発表し合うなど、伝え合う活動を単元の中で意図的に設定する。 ○教科書に掲載されている図書などを積極的に読ませ、読書活動を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○辞書を引く習慣を身につけさせ、書かれた複数の意味から本文に合う意味を選択できる力を身につけさせる。 ○主語、述語、接続語など、その単元で身につけさせたい力を意識して文章を書く時間を十分に確保する。 ○自分の書いた文章を読み直したり、友達と交流し合ったりして、正しい文章の書き方を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中心的な内容を聞き取る力を伸ばすために、聞き方の訓練（スピーチに対する感想発表、良い聞き方・話し方の演示など）や教師の聞かせ方の工夫（要点を明確にした話し方、抑揚をつけた話し方など）を図る。 ○異学年との交流を積極的に図りながら、状況（目的や場面）に応じた表現する力を身につけさせる。



改善すべき児童生徒の実態

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ■長文の読み取りや接続語、指示語の理解が十分でない。 ■目的や相手に応じて話したり、話の内容を詳細に聞き取ったりする力が十分身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の考えを話したり、書いたりすることはできるが、他の意見や考えをくみ取り、自己の考えを修正する力が足りない。 ■辞書を活用する習慣に個人差が見られるため、家庭学習や授業の予備的学習、定期テスト等で対応できない生徒が見られる。